THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

遞信省認可

明治二十年六月十五日

定價金四錢

女學雜誌

第六十三號

每月三回發行

績文舍

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

目録

〔女學叢誌〕衛生上の注意を喚起す●〔内外新報〕十數件●〔學藝一斑〕意想の連環(アッソシエーション、オフ、アイデア)●〔列女傳〕露の下をれ●〔論說〕女子の躰育(前號の續き)櫻井錠二君演說〇女子の敎育と改良する一法(前號の續き)淸水直義君演說●〔新作物語〕閨の徹夜燈第二篇(南翠外史)●〔家政要報〕牛の乳を保つ法〇臺所用に供する氷を製する法●〔御伽草〕小恐い損なり〇數學問題〇考へ物の題●〔寄書〕時事新報を讀で感あり〇獨語(前號の續き)●〔英語獨修〕ニユーナショナルリーダー直譯

女學叢誌

〇衛生上の注意を喚起す

過くる烏兎に關守なく昨日と過ぎ今日とたち早や指折り見れハ半歳前尙だ寒氣去りやらで朔風寒く氷を掠めて吹き來る中に節操正しき寒梅ハ開花の魁と誇り顏に唯だ獨り綿蠻たる黄鳥を宿し馥郁たる靈香を放ちて坐ろに人の遊意を動かすにぞ我も人も姊子等を伴ひ寒さを冒し細井戶や向嶋などの梅園に歩を運びしはつい頃日の心地すれど遠近の木々の梢を打ち眺むれば既に青葉吹き出て綠葉蔭を爲し地氣漸く回りて葛衣身に快きの候とハ爲りぬ

凡そ人類ほど我儘勝手なる者ハあらじ實にや喉もとすぎて熱さを忘るゝとの夏來れば炎熱赫暑燬くか如くなるに堪へ難くて冬日火爐を圍繞し玻璃窓を透して鵞毛の散乱するを眺むるの時節を推はしく思ひ待てど夏去り秋去り冬來て朔風窓隙を穿ち指屈み躰戰くの季に至れハ復た何となく夏候、日漸く沒し暮色將に合せんとし微凉颯然として綠葉蔓草を動かし來るの際沐浴汗を濯ひ葛衣輕服庭中を徜徉そるを心地よく思ひ待ひこと淺ましけれ

夫れ冬夏何れか最も生活に便利なるか吾人ハ何れを是れと定め難く思ふなれど夏天の炎熱赫暑空氣熱し土地燃ゆるか如き時に方ては人々身躰の内部の諸機關ハ自から弛みを生し闊て亦た其活動の力を減するに至る此隙に乘して猛威激烈なる惡疫襲ひ來り猖獗を極め晨に紅顏無事家業に斋瘁せるの人も可惜夕には北邙一片の白煙と爲り空しく境墓の土を肥そに至る者日に幾十人なるを知らさるは實に悼ましき事の限りなり

世に性命ほど貴き者はなし性命ありてこそ始めて名譽も望み財寶も得たく思ひ之を得るの道を勉むるなれ性命なくんば假令幾千万の黄金を富岳と積むとても何の用にか立ん將た何に因てか名譽を貴はん性命の貴き知るべきのみ却說我が東京の如く土地廣く人口多き大都に在ては常に空氣濆れ毒煙起り人の健康を害する鮮なしとせず殊に夏候赫暑の際に至りては飲食物其他不潔物の不注意より忌むべく怖るべき惡疫の流行を

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

來し慘憺たる不祭の新鬼啾々相依るの修羅場を現するとあり新聞紙の報する所に據るよ本年も既に類似拉症の患者を生せし由なり實に寒心の至りよ堪へす故に天の未だ陰雨せざるに先たち牖戸を綢繆すること肝要なれ既に炎熱燬くか如きの盛夏に及び惡疫猖獗席捲の威を極むるの時に際し始めて其毒氣激烈なるに駭き之れか防衛に狼狽するか如きは恰も北風吹き荒ミたる暗夜に火を失し火燄既よ屋宇に燃へ上りたるに及んて初めて其火勢の强きに打ち驚き周章狼狽俄かよ消防の法を講するか如し此時に方て其禍害を免かれんと計るも其甲斐なかるべし昨年の如きハ炎天燒地惡疫猖獗を極北邙茶毘の悲烟は北天を掩ひ不祭新鬼の白骨は纍々として自から合して一大墳墓を爲その際悠々家眷婢僕を挈げ綽々妻女子弟を伴ひ伊香保或は箱根の如き土地高燥空氣鮮潔なる所に其災と避け全く之れが慘毒を免かれたる人々も少なからさりし然れとも我か東京の土地廣き我か都下の人口多き如何なる場所に赴き如何なる土地と求めて頭々相依るの民庶を移し此忌むへく怖るへき疫癘の銳鋒を避け以て死骨堆積不祭の新鬼啾々相依るの修羅場より救ハんとする乎假令之を移すに高燥の地あり之を蘇へすに鮮潔の空氣ありとするも之と移す能はさるを

如何せん既に之を移す能ハすとせば爲し能ふの方法に據て其劇毒を防き都下百万の生靈をして修羅の巷に彷徨せしめざらんとを計るころ肝要なれ

何をか爲し得へきの方法と云ふや吾人と雖とも別に奇法あるに非らす唯だ天の未だ陰雨せさるよ先つて牖戸を綢繆するの一策あるのみ即ち炎熱未た盛ならす疫燄未だ起らざるの今日より飲食物よ吟味注意と加へ臺所、流し、室内及び溝、溷等の掃除に注意と怠らす臭氣不潔物を取除け衣服の淸潔に心掛ける等其最も重もなるものなり勿論餘財なき者に向て美食淸飲せよ絹布新衣を着けよと云ふには非らす唯た粗食蔬菜なるも善くろの品質を擇び腐敗不消化の品と用ひす健啖暴飲を愼まんとを希望するのミ又唯た古衣粗服なるも常に注意して之を濯き不潔臭氣を除き熱汗全衣を濕し之を炎天に晒らし又ハ之を雨に注き臭氣陶然として鼻を掩ふか如きは最も衛生に害あるものなれば尙は更注意を加へんとを希望するのみ弊衣粗服其物未た必すしも直ちに病の種子よあらさるべく粗食蔬菜其物未た必そしも直ちに病の種子にあらざるべしなれど此等の事柄は恰も滴々たる酸類、粒々たる硫類相合して忽ち燄々たる火光と發そる化學的の作用の如し豈に悞れさるべけんや然

三百二十三

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

り而して此重任は何人の當るへきものか吾人は之と婦人の職任に歸せざると得ず否な婦人は此職任に當るの責任と負ふ者なり彼の飲食物調理の如き臺所、流し、室內の掃除の如き衣服の洗濯の如きその他衞生上に關して婦人の當るべき職任最と多し是れ吾人の特に玆に論じて婦人の注意を喚起せんと欲する所以なり

◎中外新報

○橫濱英和女學校　橫濱山手居留地へ今度設立せし橫濱英和女學校の事ハ巳に前號の紙上にも揭載せしが猶ろの詳報を記さんに同校よてハ英學及漢學と以て女子よ必須なる學科を授くる目的にて漢學科ハ倫理、讀書、習字、珠算、地理、歷史、生理、衞生、博物、物理、化學、簿記、經濟、心理、敎育學、聖書とし別よ裁縫科と置く英學科ハ語學、筆算、地理、歷史とし又特別科と云ふと設けて音樂を敎授する由その生徒ハ通學生、寄宿生の二種に別ち通學生の授業料ハ一名に付一ヶ月金五十錢寄宿生ハ食料、授業料、藥價等を併せて一名に付一ヶ月金三圓、特別科と修むる者ハ他の學科を兼ね修むると單に特別科のみを修むるとに拘らず授業料として一名に付金五十錢と納めしめ修業年限ハ英學、漢學を併せて四ヶ年とし之を八級に分けて特別科を二ヶ年とそ又修業日ハ每週月火水木金の五日とし修業時間ハ每日英學を二時間聖書、裁縫、習字、作文、を三時間其他の學科を二時間として通計七時間なりと

○高等女學校の敎師　プリンス女史ハ先頃より我國の語學を硏究し居らるヿ由よ聞きしが昨今大に進步し普通の語辞ハ日本語にて通ずるとのことなり

○婦人慈善會員の總集會　婦人慈善會員百六十餘名にハ去る八日午後三時頃より內山下町なる鹿鳴館に參會し東京慈惠醫院の爲めに開く第三回慈善會の事に付總集會を催されたるよし

○藝妓排斥會　大山伯爵夫人及津田梅子兩女史が發起人となり近々藝妓排斥會なるものを立る積にて目下協議中なりと

○女子神學校　駿河臺なる女子神學校の新築ハ最早落成の期も近きにある由なるが愈〻新築落成の上ハ朝野の紳士貴婦人方を招待して盛んなる饗宴を張り且つ校則も改正する筈にて昨今修正中なりと云ふ

○裁縫集會所　築地居留地廿番館英人デビソン氏の邸內へ今度婦人裁縫集會所と云ふを設けられたるが此の集會所ハい

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

はゞ練習所の如きものにて何人にても練習を受ることの出來る仕組にて重に現時歐米各國に流行する衣服を始めヨダレ掛又ハ巾着等新形の裁縫と敎授せる由その敎師ハミス、ツルー及ミス、リードの兩女史なりと

○頌榮女學校　芝區白金猿町なる頌榮女學校にてハ先頃より敎場及寄宿舍の增築中なりしが今度落成したるに付新に米國の女敎師及び本邦の女敎師數名を聘し校業を擴張して新に生徒を募集し又別に豫備科を置きて小學尋常科三年級卒業以上の女子の入學を許すと云ふ

○靜女塾　神田小川町の靜女塾ハ是迄滿十六年以上の女子に限り入學を許し來りし處今度何か都合ありて年頃の處女の入學を謝絶し更に滿十六年以下の寄宿生のみ入學を許そことに改正し生徒の外出ハ證人若くハ父兄の證書又ハ其都度送り迎へあるにあらざれば一切許さず一層其取締方を嚴重にせり又敎師にハ今度外國人ミス、ヘンリーク及ひミス、マリヤナの兩女史を聘して塾內に寄宿させ生徒をして日常の談話等總て英佛語を以て談話せしむる事とし專ら語學練習を主とする由

○メレーイ女　小笠原嶋を發見したる人なりと迄稱せられし彼の獨逸國人より同嶋人に歸化されたるロイス氏令孃メレーイ女史ハ今度小野田嶋司と共に上京して築地十三番館海岸女學校へ入學せられしと云ふ

○舞踏場設置　高崎府知事ハ今度自邸(芝公園地)內へ舞踏場を開設せんと目下計畫中の由なるが是ハ貴顯紳士の夫人方の月次舞踏場に充てらるゝものなりといふ

○婦人衞生演說會　京橋區桶町の醫師櫛部漸氏ハ我國婦人の兎角身躰薄弱にして不充分なるハ衞生法の不完全なる故なりと大に憂ひ居たるが來る十六日木挽町厚生館に於て婦人衞生演說會と開き婦人に聽聞せしむる由

○學校敎員　去る五月中府廳に於て小學校敎員の免許狀を授與されたるもの十九名授業生の免許狀を授與されたるものハ十九名又裁縫科の授業生にして免許狀を授與されたるものハ七名なり私立學校の設置と認可せられしものハ二十校にして外に幼稚園一ヶ處公立幼稚校室一ヶ處又廢校せしものハ十一校なりと云ふ

○日本赤十字社へ寄附　魯國人伯爵プーチヤチン令孃ハ書籍壹冊、金二十圓、袖中繃帶具一具及び之に屬する說明譯文と此程日本赤十字社へ寄附せられたり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎踏舞會廢止の風説　從事鹿鳴館に於て開會し來りし踏舞會ハ都合により廢止せらるゝ由に聞く

◎獨逸婦人と結婚の廣告　元陸軍歩兵少佐從六位勳五等柏村庸君ハ明治十三年四月中獨逸公使館付書記官を命せられ青木全權公使と共に赴任せられ爾來同國に滯在なし居られしが去十七年中本官を辭し商法研究の爲め猶伯林府に滯留し居られし處此度同國の或る婦人と結婚の約整ひたりとか此事ハ夫婦が本國にある新聞紙に廣告なす慣例なりとて先ごろ日報社へ右の趣の廣告を依賴せられたりと

◎ニユーヨークの處女　合衆國ニユーヨーク府の畫學教師ヘツカクー氏ハ同府の處女に畫學を教授するに其進歩著しきを稱贊して合衆國處女の才能は他國人の決して企て及ばざる所なるに近頃まで廣く之を利用せざりしは最も惜しきことなりと云ひたる由なるが氏は昨年十一月情思と云へる懸賞畫題を出して學力を試みしに之に與かる處女は總數十六人にして何れも僅か二年前より畫學に從事したる年齡十七以上二十以下の者なり偖斯く畫題の困難にして手本を摸寫する事も出來ず是まで習ひ覺えし記臆を利用する事も出來ざるにも拘らず本年一月より着手して畫き出せる所は皆通常あり觸れたる畫に非ずして稗史小説中の人物を寫し出したるに其撰び方の新奇なる情を寫出するの巧妙なる大に人をして感せしめたりと

◎新刊書　今度駿河臺の成立學舍女子部より講義錄第二號を出版せられたり

◎學藝一斑

○意想の連環(アツソシエーシヨン、オフ、アイデア)

經世學人

抑も人の意思情緒は素と是れ一條なるものに非らず紛々然渾々乎たり忽ちにして驅馬高蓋に揚々乎として世人を睥睨し忽ちにして矮屋陋室に悄々焉として不平に歎じ忽焉として既に肉化し骨朽るの故知舊友を蓬草茸々たる斷碑荒墳の中に訪ひ相共に手を携へ袖を連ね歩を共にして墨堤に悠游し倏爾として關山万里の老父を垣破れ柱傾き屋根漏り雜草は庭園に蓬々として門前雀羅を張るの郷家に見え跪て落魄困頓して富岳の恩琶湖の愛の千一だに酬ゆる能はず堀筍漁鯉養老の甘泉と汲み以て之を錦褥の上に奉ずる能はざるの不孝を謝せんとし突如として宏嚴壯麗の大堂の中花氈の綺羅金燭の燦爛律呂の玲琅樂韻の鏘々の韻律は唱歌歡呼の聲と相和し貴女

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

淑嬢と纖手を携へ進歩を連ね同調を學び以て舞蹈するが如き紛々然として自から腦裡に盆涌する所の千樣万態の意思情緒を追て之と究窮せんと欲するも恰も風を追ひ影を捉へんとするが如し或は忽焉として來り或は倏爾として往く啻に細雨濛々たるの夜檐滴瀟々として芭蕉葉上に聊き四隣人定て萬籟寂然たるの際關山万里異郷の客窓に破机殘燈の下に兀坐する時に於てのみ然るに非らず街頭稠人の中を往來するの際に於ても亦た片言隻語の我が意思情緒に相觸るゝとあれば忽ち接近類似二律の作用と起し超然馳せて變幻測るへからざる境域に入り不覺大聲獨笑して傍人を驚駭するに至るとあり是れ實に解そべからざるが如しと雖とも然れども是れ彼の心理學に所謂る接近類似二律の作用に因て意思情緒の發動するものにして今ま靜かに其馳騁せる針路を追ひ究むれバ紛々然渾々乎たる紊思錯情の中に井然たる自然ハ順序法則あるを發見するなるべし未だ曾て井然たる自然の順序法則のあらずして忽ちにして憂ひ忽ちにして樂み倏ちよして喜び倏ちにして悲しむの意想情緒を發動するもの非らざるなり即ち之れを心理學に意想の連環(アッソシエーション、オフ、アイデア)と云ふなり

(未完)

◎列女傳

○露の下とれ　(下)

竹廼舍壽ゞ女　記

醫者が慈悲の見舞物數ハいくらかしら紙に包みたるまゝ受取てお國ハいそ〳〵立戻り母に知らせてもろ俱に嬉し涙にくれながら中改たむれバ一二兩當座と凌ぐ慈惠金と思ひの外に十五兩耳を揃へて入れあるに是れと驚く母と娘が種々御丹精下されるお禮もろ〳〵出來ぬ中に今の身にてハなか〳〵に見る事さへも出來難きこの數多のお金をバ假令厚きお心志に出しにもせよ此まゝにどうマア平氣で戴けやう失禮なれど其内を何程戴き置て跡ハお返し申さうかイヤ〳〵一旦下された物お取なさるゝ筈ハあるまいコリヤどうしたら宜からふと貧く暮らせど律義の母娘暫し顏とバ見合せゐたるが明日をも知れぬ母の病氣是が万一命數の盡きる時にてわつたなら平常お好のお肴さへ容易く買ても進られぬ今の生計に如何ばのり心殘りの事ならんと思へバ切角下された此のお金の事ゆゑに是れ此まゝ戴いて十分お世話をした上よ御全快になれバ重疊若し御壽命のなき時ハ追善供養を濟せた上身を沈めてもお禮とバするのが此場の便宜ならんさうじや〳〵と賢くも胸を据たる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

娘お國ハ其よし母にはのめかし兎に角お金ハ妾しが預つて置きますと元の通りに紙に包み佛壇へ仕舞つゝ尙ほ何くれと看病に餘念なきうち冬の日の日脚短かく疾く暮れてハヤ眞夜半となる鐘に夜寒を薄衣におしてゐて風でも引てハ身の爲より第一母の爲にならずと盡す心ハ厚けれど薄き布團に枕にハ就けども疾にハ眠られず空しく越し方行末を思ひ出しつ思ひやり太息がちにてゐる折柄いつの間にかハ忍び入りけん雲突くばかりの大の男一人ならず兩人まで枕頭近く步み寄りかの佛壇の開き戶に手をば掛けんとする處をフト氣が付て見上るお國夫と知るより喫驚したれど命にも換へ難き件のお金をむざ〳〵と持去られてハ一大事とハいへ女の疲腕よ爭ひ立ハ叶ふまじよき手段ハないものかと猶豫ふうちに曲者ハ早くも包みを手に持ちて仕合せよしと默頭きあひ立去らんとする体に今ハ猶豫とそるべきならず叶はぬ迄もと刎起て壁にかけある箒をバ取る手も見せず突然に一人の男の足を目掛け拂へバ忽ちバッタリと倒るゝ不意の出來事に今一人ハ仰天し免してくれと盜みたる金投付けて逃げ出すに倒れし男も立向ふ氣色ハなくて其まゝよこけつ轉びつ逃げ去りしかばお國ハホッと息をつき思ふにましても弱い人達大方晝間母さんとお金の噺をしてゐたと立腹でもした出來心か何ハ扨置き大切なお金が無事のハ何寄と拾ひ上げおし戴くを最前よりして目を覺しどうなる事かと案じゐたる母ハ此時聲を掛お國怪我ハなかつたかへ

嗚呼世の中ハ千差万別不義非道の者にても榮華の樂しみを極むあれバ斯る孝女の重ね〳〵不幸に苦しむ事もあり天道ハ是か非かの嘆きを發するものあるも亦無理ならぬ次第といふべし閑話ハ休題お國ハ危き災難を免れたるより是といふもまだ母人の運命が盡きぬしるしと考へれバ何となく心嬉しく且つハ醫師の惠みにて萬事に事を欠ざるものゝ看病も心のまゝ十分に行屆くよりさしも危篤の躰ありし母の病氣も追々よ快方に赴きて其翌年の春の末にハ床上の祝ひも濟せ全く元の身躰に復したるものゝ本人の喜びハ更にもいはず娘お國ハ死せし人の蘇生りたる心地して是も全くお醫者さまの尋常ならぬ御丹精に依るものなりと思ふまゝ夫よりしてハ朝夕に母とゝもぐ出入して何がな恩に報はんと雇ひ人同樣にまめ〳〵しく立働けバ醫師も母娘の心に感じいよ〳〵目をバ掛けゐたる折しも王政復古となり曩に嫌疑を受けし爲なが〳〵囚獄に繫がれ居し藩士も無事に免しを得て或ひハ一年、一年半の久し振にて古鄕へ戻り父母妻子に對面の喜びと爲る者も多くお國の兄なる

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

松野環もまた其人の群に入り母のお節と妹にも互みに無事の面會を爲し母の長病妹が苦心又ハ醫師の慈善等を聞くより以前の係げハ消しばかりの我家の躰よその苦しさと察しやりお國にハ特別に長の勞苦と謝しなどして母子三人當分ハ過越し方の物語りに泣きつ笑ひつ日を經しが世ハ明治と改まりかの門閥の舊弊を一掃されて四民を論せず人材を持つて登庸さるゝ開化の制度となりしかばおの／＼技藝を申立て試驗を經て官員になるもあれバ人材と見出されて用ひらるゝもあり或ハ一時の名利を需めず後來大いに爲す所あらんと良師を撰びて學ぶもあり何れも目的をつける中に環ハ尚も二三年勉強なさん心なるに既に前にも記せし如

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

く母の長病其身の入牢に共日に追はるゝ生計なれバ勸ぬながらも官途ゞ就き暫しハ母と妹との心を慰さめゐたりしにお國が切なる志操を委しく知れる人よりして聞得たるまゝ是非ともに家内に申受けたじと熊本藩士に某人ありと世に知られたる何某より追々申込みたるに環ハ妹の出世を喜び母にも勸めて納得さゞせ急ぎ承知の挨拶をじたるに何某ハ滿足し支度其他ハ何某が悉皆引受某の月某の日の良辰に立派にお國を迎へつゝ三世の固めと爲せし後ハ日を經てますく睦ましく頗て懷妊なしたるに何某の兩親ハ疾くに此世を去りたれば出產の折老人の手がなくてハ注意が屆かず殊まハ初の產なれば出來る事なら母親を產後十分肥立まで今より寄越てくれまいかと餘義なき賴みも妹の爲と環ハ快く承諾て直ちに母を立せやり自分ハ仕官の都合にて程なく東京へ赴きし跡にてお國ハやそくと女の子をば產落し續いて產後の肥立もよく一家益々繁昌ずるに母ハ安堵とせし餘りと初孫の顏を見し喜び等に氣が緩み明治五年の秋の末時雨に脆く散りて行く木の葉とゝもに死去し其嘆の淚さへ尙乾ぬに何某が去る人に唆敎され福岡事件に關係せしよりお國が再び辛酸を甞めたる末に良人の爲身を殺して貞節を世に顯はすに至りたる其趣ハ次回に讓りぬ

◎論說

○女子の體育(前號の續き)

櫻井錠二君　演述

(第四運動の事)運動の必要なることハ今更申すまでのこともありませぬ世の人も近來大にこの點に注目して先づ男子の方は舟漕、フードボル、ベースボル、角力、綱引、等活潑なる遊戲を好んでなしろの他隊式操練とかいふものも行ハれまた間々遠足會の催しもありて實に悅ばしきことなれども之に反して女子の運動方は甚だ不完全と云ハざるを得ませぬ元來女子ハ男子よりも身體が强壯なる故に活潑なる運動を要せぬ譯でわりますが或ハ又活潑なる運動をすれバ所謂柔和と云ふことに反きおてんバ御孃樣の名を蒙るを恐れて成されぬ譯でありますが私ハ日本の婦人ハ柔和過ぎると思ひます(modest)過ると云ふことでハわりませぬ timid 過ると云ふ意味でわります)而して timidity と云ふことハ身體の强壯ならざる一つの徵候でわりますに由て我女子にハ殊に此活潑なる運動が必要でわります

其運動と申すは規則だちたる體操よりも寧ろローン、テニス、シロケ或ハオニゴッコ等の如き遊戲を御進め申ます元來規則

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

立たる躰操にては身躰の小部分のみ動かすものであります故に左程利益なく又斯様なる躰操は直ぐに飽きの來るものであります飽が來て之を厭ふてなせば其益最も薄くあります之に反して前に申したる遊戯は身躰の全部を動かすのみならず余程樂しみに成るもの故に其利益實に大なるものであります此の樂しみと云ふことは我身躰に最も善き藥でありまして醫者が病人に田舍行と進むるも一つは新鮮なる空氣を吸はせん爲めでありますが其重なる目的は山水の風景と樂ますするのでありますそ此譯に因て舞踏などは躰育の一具にして餘程必要なるものでありますそ又舞踏も夏では少々苦し過ぎるに由て其替りに水泳などは至極面白くあります日本にては婦人の水泳は餘り流行致しませぬが英國などでは申さば江の島、金澤、富岡、熱海と云ふ樣な所で婦人の水泳を試むるもの實に夥しくあります是れも躰育の一具として最も善きものなれば貴孃方も御試みあらんことを希望いたしますそ

私の談話を終ります前に尚一つ申し度きことがあります我々は此頃洋食でなければいかぬとか或は坐るは毒だに由て何んでも椅子にかゝらねばいかぬとか其他樣々衛生法に注意をして居ながら此等の事には一向頓着しなかつた所の天保以前の人間と比べて餘程身躰の弱きは全躰何なる理由に依て然る者でありますか或は同じ年頃の人でも大學の學生と百姓とを比れば學生の方は先づ上等の食物を用ひ上等の衣服を着上等の家に住むと云ふても宜しひ其外百姓より萬事衛生に注意して居りますが夫でも百姓の方が壯健なるは此れやどう言ふ譯でありますか私が答へなくても貴孃方は御承知でありませう百姓の方は身躰を動かして腦髄を勞せす又學生の方は丁度反對で身躰は左程動かさないで腦髄の方は非常に勞します天保以前の人も考へ事は左程仕なくて劒術、鎗術、馬術等に多く月日を送りたるものなれば其強壯なることと宜なる譯であります又其頃には士族に祿と云ふものがありまして遊んで居ても口糊の出來たものでありますが之に反して今は競走の世の中でありまして誰れでも彼れでも學問をせねばなりませぬ其學問の度も追々六ヶ敷なつて我々の腦髄を勞しまするくと一通ではありませぬ女子も亦往昔とは違つて學問をせねばならぬことになりました即ち此結構なる學校のある譯でありますが併し貴孃方は何んでも學問はせねばならぬ勉強をせねば試驗に負るからと云ふて勉強のみに氣を込めなされて躰育を輕忽になさると必ず健康を害し御自分の苦勞は申すに及ばず親たちにも

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

難儀をかける譯でありませう又學問をするものに最も普通なる病氣即ち肺病、腦病等は子孫に遺傳するとか申しますに由て斯樣なる病氣を出してはなりませぬ先づ我々は人間であるとか或は萬物の靈であるとか云ふ樣な高尙なる考を出す前に何んでも一定の動物であると云ふ考を持つことが緊要であります我々は第一に滿足なる動物であり然る後滿足なる人間でなければなりませぬ又健康を保持することは人間たるものゝ義務であり之を害する者は一種の罪人たることを常に記臆せねばなりませぬ而して吾身の不具を子孫に遺傳するに至ては其罪實に重きことであります私は貴孃方の無病なることを偏に祈ります　（完）

○女子の敎育を改良する一法（前號の續き）

淸水直義君　演說

私は一つ愚策を考へました夫れは何んなるかと云ふに毎週一度位初めのうちは一月に一度位學校講談と云ふものを開き父兄を敎化する仕方をすれば宜しからうと思ひます其場所は各町村にある所の公立學校が宜しく又其時は父兄が糊口に閑暇な時則ち毎日曜の夜一時間なり二時間なり地方の情況に依て適宜に定めたならば宜しう御座りましやう又其講談とするものは地方に依て有志がありましやうが東京の樣な學者先生の澤山ある所は取除け物として其場所に用ゐた學校の校長が講者と爲り或は敎育熱心家が講者と爲りて講談とすれば宜しからうと思ひます固より講談を致しますかは父兄を敎化する目的でありまそ東京なれば隨分六ヶ敷き事を申しても父兄に分りましやうが僻地では六ヶ敷き事が分る者許りは居りませぬ總して六ヶ敷きことを說くのが趣意ではありませぬ成るべく分り易く敎育に入り易くするが目的でありますからやさしく面白く說くことが必要であります殊に女子の敎育が必要であると說けば長き間には效能があらうと思ひます併し是をするには能く注意しなければ爲りませぬ面白くすれば父兄も寄席に行く積りで參ます寄席に行けば錢が入りますが學校講談は錢が入らぬと云ふでありませう前にも申した通り東京は無駄でありますが隨分土地に據れば之が爲めに幾分か進ふであらうと思ひます私の從事致して居ります麴町學校などは學校長は屁の樣に思て居りますから迚も無駄な咄であります麴町でなくも東京府は六ヶ敷き所が多くあります併し私は六ヶ敷き所は學校講談はなくても宜しと思ひまそ何故なれば箇樣な人は業已に女子の敎育が必要であると云ふことは知て居

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

りますから假令ひ學校講談がなくとも差支はありませぬ詰り此講談の必要なるハ校長が面白き話として聞きに來る者が面白しと思て來るのが必要であります併し之を以て女子の敎育改良の金科玉條とするのでハありませぬ夫れ故に女兒敎育の一法と掲げて置きました箇樣に致しますと學校講談の費用が掛りませうか少し位の費用ハ學校から辨じても大した入用ハありませぬ又果して其事が女子の敎育改良に幾分かの助けになれば少しの費用ハ惜むに足りませぬ今申した樣に學校講談で父兄の思想を改良することが出來ても只ゝの思想を改良した許りではいけませぬ則ち敎育をさせる場所がなければ何よも爲りませぬ譬へば玆に水呑コップがありても水がなければ何にもなりませぬ故に敎育をする場所を立てるのが必要でありますす夫れハ別に仕方がありませぬから或お方ハ卑怯な考へであると云ふか知れませぬが當局者の奬勵に因て出來ると云ふ一言を以て此事を止めます先づ私の考へでハ中等以上の女子の敎育を改良するにハ是れより外に手段ハありませぬ是れから中等以下の事を申します前の學校講談ハ中等以下にも用ゐるのが宜しでハありませぬ必要であります併し中等以下ハ唯父兄の思想を變た許りてハ六ケ敷あります　（未完）

◎新作物語

○閨の徹夜燈　第二篇　南翠外史　述

第四　二人の少年二人の少女（壹）

燒野の雉子が子ゆゑに其の身を果し恩愛の闇に迷ふ夜るの鶴が我が衣毛を喙み捨て身を窶るをさへ忘るゝハ我が子戀しき慈母の心にぞありける左ればお福美ハお覺が日を追つて我が夜話しに耳を傾けあら〳〵しき行ひも良や薄らぎければ此處にこそ心を用ふべけれ猶も仁恕の道を說くに今樣の語りざまもて意味深き話しを作ればとて中ごろ聞飽もせまじ何とか考ふべしと思ひ立ちてければ其の日ハ恙ありて一間に閉籠り物本をくり廣げて彼れよ此れよと物語りの料になるべき事を探る折からお覺ハ學校より歸り來りて母の病氣ありと聞くよりも急ぎ病間に到りて見るに假の臥床を拔出て机にもたれ本など見て有りけるゆゑお覺ハ優やかに側よ進みて「御母樣唯今歸りました何處御勝れ遊さないと申す事でございますが御氣分ハ如何で被爲入います宜しくばお脊後でも擦りませうかト耳新しき詞遣ひにお福美ハさてもおかしき心の出けるか常のあら〳〵しく卑し氣なる詞ざまにハ引かへ吾兒の何と珍しき

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

言の葉ぞ些しハ感化の験の見えけるにやと思へば最と太う心嬉しく「イヤ其の程に悪い事ハないから安じでないヨ今まお夜食ハ其方へ行て頂きます擦るよハ及バないから毛糸の編かけを編でから少し遊んでお出なさい「夫でも御本ばッかり御覧なそつてお出なさるうちらお肩が凝ませうと存じまして少し叩いて差上げませう「アイヨ誠よ難有いが斯して静のよして居る方が勝手だから搆ずに置てお呉れ少し静かにして居ると直きに癒りますト一聴にてハ承知せぬ母が詞の受答へ強て言バ猶更に氣色を損ねる事もやあらんとお覺も其の儘に休みけるがお福美が心の喜びハ如何ばかりにてありつらん

兎角するうちに日もうち暮れて常の如く一家團欒のうへ夜食をも終りしかお福美ハ未だ腹稿の定まらざりけるか奥へ燈火を點けよとて再び元の間に入り頻りに書物と尋ぬるうち心なく柱に懸けたる時辰ハ午後十一時をぞ報じけるさても夜の更易さよ奴婢等の定めて睡氣ついてあらんずらん心なくも夜を更しけるよと思ひければ孰れも寐よと命じて自らも戸締りを補け火をしめしなどしつお覺が手と把りて臥床に入りぬ

お覺ハ「孀婦の知己」といへる談話の一段落を告げたれば今宵も面白き話しをとハ言はれしかど果して語り給ふや否や覺束なしとハ思ふものから母が口から欺き給はんとも思へず然れども心地の常ならぬに迫らんも心おしと思ひければ「御母樣く〱御足でも擦りませうかお腰でも揉ませうか「イヤ〱夫にハ及ばんヨ今夜ハ夜が更たから眠からうサア人に遠慮をせないで早くお寝ヨ「イヽエ未だ睡くハございません「睡くないなら今日大層優なしかつた口の利やうも女らしくッて誠に可愛らしかつたから御褒美にお約束のお話しを少し口を開きませうか「難有うございますが毎晩〱お話しをなさいますそのに夫に今日ハ御加減の悪い處をまた御身體に障つたら否ません「ナニ妾ハい〻がお覺が眠いなら止ませうヨ「イヽエ睡かアないノ夫なら十二時までお話しをして下さいまし「アイヨ今晩から話すのハ「二人の少年二人の少女」といふお話しだからヲ其の積りでお聞なさいヨト口に任せて語り出ける

青葉若葉の木梢の緑ハ昨日の紅と入代りて杜の下闇夏と告げ靜閑を好む人の目にハ艶陽蕩駘の頃よりも一層風情を加ふるならん世に關係ふとの稀よして餘生を韵華情風に樂しむ老の耳にハ杜鵑の空遙かなる聲を得て澄渡る清水に嗽そゝるが如き心地ぞすなる上野の岡の北の方根岸の里に世を避けて風流三昧に老を養ふ熱田清菴といふ老人ありけり年ハ古稀をも

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

越したれども未だ其の昔者咲せたるお花といふ妻もあり漆の如しと誇りさる雲の鬢に雪降りて額に浪ハ寄れども矍鑠として壮なり爲す事もなき老の身の氣保養にもと子供を集へて淸巷が源氏の講釋をすれバお花が琴の爪調を敎え親しき家の女童を一日の友とするも樂しみ自から其の中にあるべし此の教子の中に就て二人の愛らしき娘ありともに熱田老夫婦に能く懐きて用なき折も常よ來りて世間話しよ老の心を慰むべし一人の娘をお靜といひ同じ金杉村に住居する鐵道會社の重役員香川靱の長女にて今年十五の蕾なり今一人ハお敏とて堀留町の積問屋海野盛一が愛娘お靜にハ一ッ劣りて十四の春を迎へしが堀留邊ハ俗買のみにて子女

三百三十五

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

教育の地にあらねばとて此の根岸なる別荘に置き日々上野公園地の文部省官舎に住む外國人の許に通ひて其の夫人に懇篤なる教諭を受るものなりとぞ然れば風俗の上より言ふも智識の上より評さんにもお靜とお敏とハ一樣なる玉の面貌花の色柳眉細腰にいづハなけれどお靜ハ左右に物控へまて諸事丹念にものすれども才の冴々しき者にハあらず優かに柔順にて割唐子に緋鹿子の装飾も似合よく襟なしの袷小袖に糸錦の帯を目立ねばや○の字にも結びたき趣きありお敏の方ハ之れに反して騒々しき事ハなけれど言ふべき事だけハサッサと言ひ諸事活潑にして眼はしの利き才智賢こく抜目のなき性なるが烏羽玉の黒髪を惜氣もなく切て前に垂れマガレートとかいへる束髪にとき色の薔薇を一輪挿して簪兒に代へ淺黄綸子の被布を被て紫繻子の袴を穿きたるハ lovely ともいふべき風致あり

お敏　お靜さん今日ハ先生ハ彼方へお出なすつたから御留主番とするのだサ五時頃にハお歸りなさるから夫迄何をして遊びませうねェ貴女ハ何がお好でございますヨ

お靜　妾ハ貴女さへ爲されば何でも致しませう

お敏　だッて夫ぢやァ否ないから貴女マァお好みなさいナ

此の時夜ハはや十二時を過ぎ後談を殘して寢まりけり

◎家政要報

○牛乳を保つ法　牛乳を久く保たせる法ハ種々之れあれども其中最も簡易にして最も久く保たせる法はパスチュール氏の發明に係るものにして乃ち牛乳を水の沸騰點二百十二度まで沸騰せしむるときは數日の間ハ味合を變ずることなし若又二百二十度にまで沸騰せしむるときハ數週間ハ必ずその味合を保つことを得べし此他の方法によりて二百五十度までも沸騰せしむることの出來るならバ幾年間置とも決して腐敗する氣遣なし

○臺所用に供する氷を製する法　充分に沸騰したる湯を一ガルロン入りの石瓶に七八分位入れ之に極製の白蝋二オンス程混和し堅く蓋をおしてその白蝋を瓶の底に沈め斯くて三四時間をも經なば瓶中の水ハ充分に氷結するに至るべし左れど瓶中の氷を取るとき強く瓶を動せば速に蒸發するにより宜く注意すべし凡そ熱湯ハ尋常の水よりも堅く氷結するもなり今此實驗に據て觀るときハ嚴冬の冷水よりは沸騰したる熱湯の方が却て早く氷結してその堅固きことも遙に勝れるの理を證明し得らるゝなり

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○越後縮の景況　本年同品の景況を聞くに益々同品の拂底を告ぐるのみならず最早本年の賣物に充つべき持荷とては殆んど皆無の有樣に及びたりと云ふ尤も兩三年以來の不景氣續きにて拵方に漸次不昧を加へたるが上に昨年に至りては遂に甚だしき安直を惹起し同年八月頃にハ亂賣を始めたるが品拵けは可なりなりしも之が爲めに産地ハ莫大の損害を被り今日の姿にてハ織元は過半廢業又は轉業するに至り隨つて職工も亦四散したれバ之に伴ひ本年の織出しは昨年に比して五分方の減少なるにも拘はらず府下及び各地よりの買注文は昨年に倍し買人のかたにて競爭を始めたるので非常の騰貴を來し染方の善惡と評するに及バずして斯く糶買を爲す其原因は昨年の安賣にて府下の問屋等にて持荷とては一反も餘さゞるが爲め此好況を見るに至りたるものなりと又産地の織上相場はスキヤ羽織地匹物三圓八十錢より四圓三十四錢着物地一反に付飛白三圓より三圓五十錢縞地二圓八十錢より三圓三十錢縮紺飛白三圓三十錢より四圓五十錢上布四圓より六圓迄白越後三圓より六圓五十錢内外にて之を昨年の直峠に比較すれバ産地の相場ハ殆んど三割以上の高直にして此先猶は上向きの氣配を含み居るよし

◎御伽草

○小忿ハ損なり

英吉利の王ジョオヂ三世の頃にシェリダンと云へる人ありけるが中々の狡黠者なり一日一輛の馬車を雇ひ近郊を逍遙する途中親友の小說家リチャルドソンに邂逅たりければ招て共に乘らしめ行くこと數町、四方八方の話の内に僅かの事より一場の議論を惹起しリチャルドソンハ怒て罵詈を極めしかバシエリダン佯つて怒を發し忽ち車より飛び下り「汝の如き不理窟を云ふ者と同車するを好まずといひ放て何れへか立ち去れりリチャルドソンハ己れ議論に勝ちたりと思ひ悅び勇で「汝敗けたり汝敗けたり」と連呼しつゝ車を驅りしが跡にて考ふれば車賃を拂はせん爲め計略しシェリダンの術中に陷りたるにてそれを悟らず小忿を發したることそ口惜しかりしとて大に悔悟なしたりと小忿ハ宜く戒むべき事なり

○數學問題（答ハ皆來月五日迄）

甲乙工人ありて甲ハ三日にて成すべき業を乙ハ七日にて成す今甲乙二人にてその業を執らば幾日にて全く成就するや（美濃笠松撫箏女史出題）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○考へもの〻題

某漢學先生乞金圓若干於某氏某氏報之以三梁四柱烈火燃之七字是何隱語(但し漢字一字に解くべし)(三宮キウ女史出題)

記者白す　六十一號の數學及び考へもの〻答は諸君より送り越されたるもの數多之れあれども一回おきに答と掲載するは御投寄の答案發兌の後に到達致候に付今回より二回おきに掲載申す事に致し候

◎寄書

○時事新報を讀で感あり　大坂　蕘道春千代郵寄

去月九日の時事新報に於て記者は我國教育費節減の事に就ていとも懇切に論らはれしを見て余も亦聊か感せし所あるを以て爰にその愚見を述べ以て識者の一笑に供へんとそ

抑て彼の時事新報記者の云ふ所は教育費を節減する爲めに現任の學校教員を解傭して兒童の教育を僧侶に托し寺院を以て校舍に充てんとの主意なるが此説たるや大にその當を得たるもの〻如し抑も彼の僧侶の如き徒手坐食の輩をして此任に當らしめたならば實に打て附たる役目にして此上もなき良策なりとは雖も又此に一の注意すへき事ありそは他にあらず若し僧侶をして之れが任に當らしめば得たり畏しとして陰かに例の因循主義の佛教癖を擔ぎ出して人を瞞着せんとする心より遂には兒童をして知らず識らず不活潑の卑屈心を釀成せしむるの恐れあり又一つは僧侶其人の品行に就て深く注意せざるべからず然れども此品行の事に至りては現今の小學校教員たりと雖も敢てその宜しきを得たりとは云ひ難し彼の織田純一郎氏が著はされたる大坂紳士と云ふ書に「今の學校の教師は過半書生上りの怠惰者が巡査になるより教師の方が優しであらうと云ふ所からなる者なれば人の兒を托さるべき人物は少ない」と記るされたり織田君が嘆息の如く實にその教員の教員たる者は十中一二に過ぎざれば安じて之れに兒童を托するは寔に危險の至りなり然るに今又此教員に彷彿たる不品行の僧侶に之を托せんとそるは愈以て安心のなり難き次第ならずや左れど若しも此論をして實際に行はしめんとするならば先づ十分の詮索を遂げて學識智徳共にその全きを得たる僧侶を撰り出さゞる可らず又彼の神官者流に於けるも空しく朝夕社頭の點燈者たらしめんよりは寧ろ氏子の子弟を教育せしめなばその利益少からざれども是亦その任に適する人物の乏しきを如何せん余は此説を實行すると得るも教育の事を悉く神官僧侶の手に托するは甚た不安心に思ふなり故に一校に一人の卓越なる主坐教員を置き此人をして校業の主任者と爲し而して神官僧侶をして之が補助教員たらしめん事を希望す

○獨語(前號の續き)

又源平の乱の時異國は宋の代にて程氏朱氏の道學興り詩の道衰ふ我國にも俊成卿天台の佛法を學びて一心三觀の理を歌道の極意とせられたり其子定家卿も亦その家訓を受けられし故にや詠み出さる〻歌皆理窟にてくだ〳〵しきこと多し異國も我國も同時に詩歌の道衰へたるは誠に氣運の然らしむる所なるが悲しき事共なり凡我國の歌は定家卿より衰へたりと思ふ爲家卿は又定家卿よりも劣れるよし然るを其後の人京極家の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

教を尊信して今世までも固く金科玉條と心得るは口惜し是れ歌道の天厄とも云ふべきなり今人の歌を詠む程にては必ず公家の中の名家なる人を師として學ぶ是れ大なる誤りなり古より位高き人に物の上手は無き者なり上手は何時も賤き者に出來るなり歌道にても人丸、赤人は貴人にあらず古今集を撰びたる人々も友則一人大内記にて五位の官人なり貫之は又其下と見ゆ躬恒は甲斐の目代忠岑は右衛門の府生なれば皆地下の賤者なり此輩皆歌道に達せし故に撰集の勅を請たり歌の盛んなりし時だに高位に坐す人には達者稀なり況や今の世道衰へし時に公家の高位の人に何として上手あるべきや我に眼なき故に公家の名家にて歌所と定められたる人をば必ず上手ぞと思ひて添削批判を受くるはあさましき事なり然ども名利は悲しき者にて譽れを當時に取らんと思ふより公家の名家の稱美を得て世に誇らんと計るなり愚心に思ふに歌道は師に就て學ぶに及ぶまじ但た和歌の書は傳授なくては讀み難きものなればそのことと心得たる人に從て書を讀み習ふべし既に書を讀ミ習ひたる上は萬葉集より三代集までと撰び返し千遍よみなば大方諳誦すべし詞を諳じて朝夕諷詠すれば自然に風調とも悟るなり其上に諸家の歌學の書とよまば法をも知るべし其上にて花を觀、月に感じ人情興感の事ある時は自然に三十一文字を連ね出そべし是眞の和歌にて上代の人の歌は皆境に至りて詠み出したるものにて師に學びたる人はなし　（以下次號）

○正誤　前號女子の敎育を改良する一法と題するもの〜末尾に去十六日大日本敎育會雜誌の十二字を脫し又同號に記載したる數學の答中（×3）は（7×3）の誤なれば茲によろの粗漏を謝す

英語獨修

ニユー、ナシヨナル、リーダー直譯

〔第廿三節〕㊀子供等と㊁而して㊂娘等が㊃遊に㊄於て㊅外に㊆在る●㊀外を㊁眺め（よ）㊂子供●㊀害を㊁取り㊂なす㊃な●㊀汝は㊁私に㊂乘を㊃與へるで㊄有らう（か）㊅小さき㊆子供（よ）●㊀オー㊁然り㊂汝は㊃私の㊄新らしき㊅橇に㊆於て㊇乘り㊈得る●㊀偖㊁ローバー（よ）（犬の名）㊂我々は㊃競走を㊄持つで㊅有らう●㊀速かに㊁走れ㊂ローバー（よ）●㊀若しも㊁汝が㊂速かに㊃走り㊄なさ㊅ぬ㊆ならば㊇私は㊈汝を㊉捕へるで⑪有らう

NEW NATIONAL FIRST READER.

Lesson XXIII.

The	boys	and	girls	are	out	at	play.
ゼー	ボーイス	エンド	ガールス	アル	アウト	アット	プレー
	㊀	㊁	㊂	㊆	㊅	㊄	㊃

Look	out,	boy !	Do	not	get	hurt !
ルーク	アウト	ボーイ	ドウー	ナット	ゲット	ヘアート
㊁	㊀	㊂	㊂	㊃	㊁	㊀

Will	you	give	me	a	ride,	little	boy ?
ウイル	ユー	ギーウ	ミー	エ	ライド	リツトル	ボーイ
㊄	㊀	㊃	㊁		㊂	㊅	㊆

O	yes,	you	may	ride	on	my	new	sled.
オー	イエース	ユー	メー	ライド	オン	マイ	ニユー	スレード
㊀	㊁	㊂	㊈	㊇	㊆	㊃	㊄	㊅

Now,	Rover,	we	will	have	a	race.	Run	fast,
ナーウ	ロバー	ウイー	ウイル	ハーブ	エ	レース	ラーン	ファスト
㊀	㊁	㊂	㊅	㊄		㊃	㊁	㊀

Rover !	if	you	do	not	run	fast,	I	will
ロバー	イフ	ユー	ドウー	ナット	ラーン	ファスト	アイ	ウイル
㊂	㊀㊆	㊁	㊄	㊅	㊃	㊂	㊇	⑪

catch	you !
キヤツチ	ユー
㊉	㊈

三百三十九

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

廣告

●歌文點刪每月無料廣告

和歌擴張ノタメニ弘道會通常會員ハ歌文點刪無料需ニ應ス

但シ草稿ヲ送ラントスル諸氏ハ弘道會加盟金トシテ金五拾錢ヲ添フベシ

大阪大手通三丁目四番地　弘道會　編輯員　山田淳女

教育時論大改良ノ廣告

本誌ハ全國教育家ノ贊助ヲ得有力ナル賓友幕賓ノ多キコト全國ニ冠タル好雜誌ニシテ其目的ハ理學的ノ教育ヲ勸メ實業教育ノ方案ヲ極メ開發教授ヲ行フニ必要ナル諸學科ノ知識ヲ普及スルニ在リ其欄ヲ分シコト左ノ如シ

一 社說　社中ノ意見及ビ卓識ナル教育家ノ意見ニシテ公正適實ナル者ヲ載ス

一 教育　教育ノ學說、施政、教授法等ニ關スル論說ヲ藏ス殊ニ諸家寄送ノ論說ニシテ此欄ニ載スベキ材料ニ富メルコトハ是教育時論ノ擅場タリ

一 哲學　心理、論理、倫理等哲學上ニ係ル論著飜譯ヲ揭載ス

一 理科　生理、理化、礦物、生物、地文等ノ諸學ニ就キ新奇有益ノ說喜ブベク樂ムベキノ學說等ヲ載ス是本社ノ最モ力ヲ致ス所ナリトス

一 文藝　文學ト技藝トニ係ル材料ヲ蒐輯スル一欄ニシテ假名會員ノ寄送ニ出ヅル假名文及ビ廣ク世ノ文藝家ニ就キ和歌、和文、新體詩歌、文學上ノ論說、教育家學者ノ傳記、外國文學ノ一斑ヲ知ラシメムンコトヲ要ス

一 雜纂　各地教育家ノ通信、內外教育上ノ事情、學術進步ノ景況等ヲ報道シ務テ新奇確實ナルヲ要ス

●本誌定價●一切前金●一冊五錢●十册四十八錢●二十册九十錢●郵稅一冊ニ付一錢宛

●廣告料●一行ニ付八錢●特別十五錢

右ノ如クニ御坐候間本誌御講覽下サレ候ハヾ一擧シテ教育上學問上ノ景況ニ通シ且ツ文藝ノ趣味ヲ培フノ一端ニモ相成誠ニ便益上ナク候且廣告ノ儀モ本誌ハ最モ廣ク教育社會學術社會ニ行ハレ候者ニ就キ廣告ノ効能甚多ク候間陸續御依賴下サレ度教育家ノ轉任等モ何卒廣告ノ御用仰付ケラレ度候

通信講學會本局

東京下谷區練塀町十四番地　開發社

舍告

本誌代價前金相切れ候ときハ帶封を朱書に致して御送附申上候ニ付其節ハ早速御送金被下度候也

積文舍會計掛啓白

本誌代價表

冊數	正價	此郵稅
壹冊	正價金四錢	此郵稅壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢

但シ東京十五區內郵稅不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ帶誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵稅共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵券代用ハ壹錢切手にて一割增し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替券と本舍へ御送附可被下候但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所　東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地　積文舍

持主　松本義弘

編輯人　原口令成

印刷人　初鹿野錦五郎

大賣捌所　東京芝區愛宕町一丁目三番地　修正堂

同　神田區淡路町　巖々堂